

業務上の危険（ハザード）および対策のポイント

領域	具体的な内容	組織としての対策のポイント	個人の対策のポイント
①生物学的要因	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 感染の危険を伴う病原体等（ウイルス・細菌・真菌・植物など）への曝露 ◆ 血液媒介、空気、飛沫、接触（患者のケア）、汚染物・廃棄物の取り扱い（針などの医療器材・リネン、排泄物）による感染 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 標準予防策(スタンダードプリコーション)の徹底 ✓ 汚染物廃棄の取り扱いルールを作成 ✓ 入職時の教育、定期的な教育、感染発生時を想定した訓練実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自分の発熱、下痢、咳などの不調を見逃さず、状態報告・受診・治療・療養等の適切な対応をとりましょう。
②物理的要因	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 電気、熱、音、不適切な換気、レーザー煙、電離性放射線、非電離性放射線、光、電子機器、ブルーライトなどへの曝露 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 環境の整備、作業環境の点検 ✓ マニュアルの作成（項目例：環境の整備（作業環境デザイン）、定期的点検、使用機材の保守・医療資材の明記、隔離、防具・遮断材の使用、事故発生時の報告フロー） ✓ 教育・研修 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 組織の予防対策・マニュアルを守りましょう。 ✓ 改善に向けた気づきやアイデアを提案し、みんなで共有しましょう。
③化学的要因	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 人体に有害な化学物質への曝露 例：消毒剤、滅菌剤、薬物、試験試薬、殺菌剤、抗がん剤(HDs)、エチレンオキシド、ホルムアルデヒド、グルタルアルデヒド、アスベスト(石綿) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各種法律（労働安全衛生法、特定化学物質障害予防規則など）に準拠した作業環境管理 ✓ 取扱い化学物質のモニタリングなど ✓ 曝露予防のための対策、安全な取扱い基準・手順、マニュアルの作成 ✓ 教育・研修・訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 安全な取り扱い（安全キャビネット、保護具の適正な使用など）を徹底しましょう。 ✓ 曝露時および化学物質の拡散が発生した場合は、直ちに上司に報告しましょう。 ✓ 曝露により生じる症状や傷害と応急処置について対応（把握）し、経過観察（記録）しましょう。
④人間工学的要因	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 作業動作に伴うもの（患者（利用者）の移乗や体位調整、抱き上げなど、電子機器（電子カルテ、タブレット型機器など）の使用） ◆ 筋骨格系障害（腰痛・肩こり・捻挫・骨折・手根管症候群の痛みやしびれ）、眼精疲労 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 作業環境の点検と整備 ✓ 補助用具（リフト、スライディングシートなど）の導入と使用 ✓ 健康管理・教育・腰痛予防体操の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 補助用具を使用しましょう。 ✓ 作業姿勢・動作を見直しましょう。 ✓ ストレッチ体操を行い、ストレスを軽減しましょう。
⑤交通移動要因	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 通勤、業務による交通移動に伴うもの ◆ 外傷、物損事故、人身事故 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 職員の安全意識の醸成、安全行動の意識づけ ✓ 仮眠・休憩室の整備 ✓ 危険情報の共有と再発防止への取組み ✓ 職員の交通事故防止には職場の側にも安全確保の責任(安全配慮義務)がある 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 心と時間に余裕を持って行動しましょう。 ✓ 運転中に眠気を感じたら安全な場所で仮眠しましょう。 ✓ 危険情報はみんなで共有しましょう。
⑥勤務・労働時間要因	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 夜勤交代制勤務、長時間労働に伴うもの ◆ 生体リズムの乱れ、睡眠不調、疲労の蓄積による心身の活動性の低下(医療事故、無気力、イライラ、焦燥感)、中長期的な健康への影響 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 法律に沿った適正な労働時間の管理 ✓ 看護職の夜勤・交代制勤務に関するガイドラインの活用 ✓ オン・コールでの出勤・緊急訪問があった場合に次の勤務開始を遅らせる、代休付与等による休息の確保 ✓ 仮眠・休憩室の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 夜勤前後の上手な過ごし方を見つけましょう。 ✓ 夜勤中は適切な仮眠をとり、水分補給と消化のよい夜食をとるようにしましょう。
⑦心理・社会的要因	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 患者(利用者)やその家族等、同僚および第三者による暴力（身体的暴力、精神的暴力、性的暴力） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 平常時の対応（予防・抑止）、暴力発生時の対応、暴力発生後の対応を検討 ✓ システムの強化（担当者の配置、警察 OB の配置、緊急通報システムの整備、被害を受けた職員へのケアプロセスの標準化）など ✓ 教育・研修・訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「暴力を許さない」という意識で組織の取組みに参画しましょう。
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ハラスメント（パワー・ハラスメント、いじめ、セクシャル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経営層トップの取り組み決意表明 ✓ 人権意識の向上 ✓ 実態調査 ✓ 相談窓口の設置、相談しやすい体制作り、相談員の質の向上 ✓ 事案の早期発見、見極め、介入など ✓ 教育・研修・訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 患者（利用者）や同僚に敬意を払った言動を心がけましょう。 ✓ 価値観の違いを認め合いましょう。 ✓ コミュニケーションが活発な職場環境を作りましょう。
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 精神的ストレス 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ストレスチェックの実施・分析 ✓ メンタル不調者の職場復帰支援 ✓ 相談窓口の設置、相談しやすい体制作り ✓ 産業保健師の配置、産業医の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 職業人としての規律性・柔軟性や傾聴する力を持ちましょう。 ✓ ストレスの対処法を身につけましょう。 ✓ 助けを求めることの大切さに気づきましょう。